

土佐清水の地質学的歴史（2）

マグマの記憶

約 1400 万年前、日本の島々が現在の位置に到達した後、地球の奥深くから、現在の西日本の部分部分をなしたマグマが噴出し始めました。一部の研究者は、このマグマがこの地域の多くの山や、太平洋に突き出た四国の海岸沿いの多くの岬の基礎を形成したと考えています。これらの半島の一つの先端が足摺岬となり、その花崗岩の崖はこの間に地下深くで固まったマグマで構成されています。これらの崖の岩の様々な特性は、それよりもはるかに古い大陸の岩の特性に似ています。この類似性は、足摺岬の岸壁がいつの日か大陸がどのように生まれるかを理解することを助けてくれることを願う科学者たちにとって期待を抱かせるものです。

持続的な変化

テクトニックプレートの相互作用によって形成された原始の土地は、日本の島々がアジア大陸の端から崩れ落ちた後に形成された地層や、花崗岩に変化した固まったマグマと同様に、地質学的な力の影響を受け続けています。マグマの活動や地震活動は風化や浸食と同様に景観を変え、地質学的に多様な土佐清水の地を常に変化させています。